

学級通信の機能

学級通信の機能には3つあります。

連絡機能

「来週写生会があります。持ち物は です」といったことです。
この機能を高めるためには、箇条書き、枠囲み、フォントなどのレイアウトの工夫が肝要です。

教育的機能

これは、受信者が読むことで、子どもへの教育的な効果があるということです。
例えば、教室で通信を読み上げた場合、それを聞いている子どもたちへの何らかの教育的効果が期待できる。

あるいは、子どもが家庭へ持ち帰り親御さんがごらんになって、子どもをほめてあげる。そのことによって子どもの意欲が高まるといった具合です。

さて、この機能を効果的にするためには次のようなかき方の工夫が必要です。

説明より描写。

例えば、次のような文があります。

「洋一くんが大きな声で歌っていたので、私はほめてあげました。」

これは、説明調で効果が薄いのです。

次のように書くと良いのです。

「洋一くんの歌い方を見ると、目を大きく開け、のどの奥まで見せて歌っているのです。そこで私は思わず『洋一くん歌のプロ!』と叫んだのです。」

どちらがより映像が浮かび、親御さんが褒めやすいか？

また、どちらが他の子への間接的なアドバイスになっているか？

一目瞭然ですね。

啓発的機能

これは、教育・子育てに関する優良な情報を受信者に渡すということです。

私は、子どもに関する全国調査の結果やテレビ視聴の害、テレビゲームの害、脳科学、性教育に関することをのせたことがあります。

この時のポイントは、データ(数字)や新聞記事などを活用することです。

新聞の記事というのは、良いつけ、悪いにつけ力があるのです。